第 2017-23 号

恵みと真理のニュース

2017 年 6 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 酷く偶像崇拝をした母親を神様は救ってくださり、天国で福を享受するようにしてくださいました

私の子供の頃、母はお寺で住んでいるようでした。貧しいその時代に 母のいとこ義姉がお寺を管理していたおかけで寺で働いてお米をもらったそうです。どころが私が4歳になるある日、井戸で落ちてしまって死にそうだった事故が起きて母はお寺で働いたのを辞めました。しかし、母はむしろ私の命を仏様が助けてくれたと、親戚が助けてくれたと言い酷く偶像崇拝をしました。まもなく、その寺が火に燃えてなくなっていとこ義姉が一日にして没落しました。そうしてから私たちの村に福音が入ってきました。

私が7歳になった時、小さい村で教会が建てられ朝ことに教会で鳴り響く鐘の音が幼い私の心を触れました。小学校3年生の夏に教会で夏聖書学校が開かれて母の秘かに教会に行って礼拝するのを見ました。そこはまるで天国みたいでした。"イエス、イエスの名で勝利を得った。讃美歌と歌詞が私の頭に確実に覚えられ、子供たちが集まって賛美するのがうらやましかったです。ある子が私を発見して教会の中で連れて行きました。教会の中は十字架を背負って ゴルゴタの丘を登っているイエス様の姿の絵が初めて目に入りました。

何も知らないがイエス様を見たらとてもかわいそうでした。そして、むちうっている軍兵達がとても憎みました。家に帰って来てそのすがただけ思いだしました。続けて教会に通いたかったですが"お寺で生まれたから教会に行くと死ぬよ。と話す母の反対で教会に行けませんでした。

経済的に大変でソウルに来て姉の家に泊まって昼には職場に通い夜は勉強しました。そして年取った執事さんの助けで教会に通い聖書勉強を始めました。その執事は小さいハンバーガー店を運営しました。そこで行ってみたらあちこちに聖書の御言葉が書いているのを見て私が教会に行かさせてくださいと頼みました。。執事の助けで教会で礼拝と聖書勉強と青年部の集いに熱心に参与して聖歌隊で奉仕をしてみましたが、恵みを受けなくて信仰が成長しなくて結局辞めました。

結婚する時期になって友達も1人２人結婚して母のことで仕方なく配偶者を紹介してもらって何回お見合いもしましたが自分の気に合う人がなかなかいなかったです。執事が亡くなる前に"イエス様を信じる家庭で嫁にいかなければならない。" と強く話したことが思いだしました。そうするところに縁が現れました。今の旦那です。友達の結婚式で私を一回見て気に入ったから友達に紹介してもらって会いました。友達を通して調べてみたら彼はイエス様を信じなくて両親は篤実なクリスチャンでした。紹介してもらう場で自分はまだイエス様を信じなくてこれから努力するつもりで私が信仰生活するのを反対しないと言うこと信じて結婚しました。

結婚してみたら大きい試練が私を待っていました。さすが、姑は特質な信仰で主を仕えて舅も主を受け入れて礼拝に充実な方でしたが、旦那は正反対でした。誰よりも世の財物を愛して友達と酒が好きでした。それでも姑と共に教会に通って信仰生活をしたので神様に感謝しました。しかし、どんどん言い争いもして旦那を全く理解できませんでした。その理由で悪いゆめをみて私の体は病気になって経済的にも大変でした。二人の子供達を育てながら大変な霊的戦いをしました。このような私を気の毒に思ってくださって区域長の手に導かれ区域長の祈り会に初めて参席しました。多くの区域長達が集まって神様の御言葉と恵みを分かち合って様々な祈り課題で熱く祈る姿を見て感動を受けました。私も以前にはなかった切ない心と信仰で神様に祈りました。

その後、児童区域長を職分を受けて従順して献身する中で聖霊洗礼を受けました。これから御言葉に恵まれて信仰の滋養分になりました。今までは御言葉を聴いてもよく悟らなかったですが、今は当会長の牧師の説教が私の心に圧倒的に作用しました。忠誠して職分を担えると5名10名20名で児童区域が大きくリバイバルをしました。

そんな状況でサタンの誘惑が来ました。借りた借金を返すため私も働きました。そうしながら職分を疎かにしました。まもなく腰が痛くて働くことが出来なくなり、その間旦那は新しい職場で力を尽くして働いたのに給料をもらえなくてむしろ謝金が増えました。私は神様の前で悔い改めて再び信仰と愛の熱情を回復するため切に祈りました。

そんな私に今回成人区域長の職分を下さって新しい決心と覚悟で忠誠して献身しました。すると区域で3人が児童区域長と2人が成人区域長になるほど短い期間に区域が大きくリバイバルをしました。それで、私は偶像崇拝をしていた母がかわいそうで憐れむ心が大きくなり、切ない心で母が救われるように祈りました。母の心は難攻不落ようでした。母は相変わらず福音を拒否して酷く偶像崇拝をして財物を最高の価値と思っていました。家族が集まるとお金や祭祀の話だけでした。性品は良かったですが、経済力が弱かった旦那を母と家族は無視して心が痛くなりました。

そうするうちに急にお腹が痛くて病院に行ったら卵巣にこぶがあってそのこぶを無くさなければならないとしました。はじめは神様を恨みましたが、長くならなくてこれが災い転じて福となりました。神様の恵みでこぶを無くす手術を受けました。手術を受けた後、ちょうど春の伝道大会の期間なので痛い体で母を連れて教会に行って決信させました。ありえないことでしたが、病弱になった私がしぬ人の希望を聞いてくれなくて、生きている人の希望を聞いてほしいと強く話したら心が弱くなった母は教会に来ました。そして、癒しと祝福祈りの時間に当会長の牧師の祈りを受けて痛かった腰が治る神霊な体験をして"本当に神様はいきておられるね。" としました。

母は田舎に行って偶像崇拝を辞めて教会に通いました。母は82歳でした。私よりもっと熱心に信仰生活をして去年の冬に主に呼ばれて天国に召されました。病床で息を引き取る最後の瞬間までまだ救われなかった家族のため涙を流しながら祈りました。神様は旦那も救ってくださって神様を畏れる生活をするようにしてくださいました。私にも首区域長の職分を下さって良い楽しみと感謝で主の事に献身するように導かれました。受けた恵みと職分神様に感謝しもっと礼拝と奉仕と伝道に力を尽くすのを決心してすべての栄光を神様に捧げます。"愛します。私のイエス様！"

［信仰コラム］ 聖霊の恵み

"我は聖霊を信ず"(使徒信条)

まず、コリントの信徒への手紙一の 12 章に記録された恵みに関して調べてみましょう。

第一、知恵のお言葉の恵みです。聖霊様がくださる"知恵のお言葉の恵み"は私達が当面する状況と問題を正しく分別して適切に対処していくようにする恵みです。経験と訓練による知恵ではなく聖霊様がくださる恵みであります。

第二、知識のお言葉の恵みです。神様のお言葉を正しく分別して述べ伝えるようにする恵みです。また、他の情報手段を通さずにひたすら聖霊様が教えてくださることで事物の実状を分かる"知識のお言葉の恵み"があります。

第三、信仰の恵みがあります。神様のお言葉に対する信仰は聖霊の恵みに属します。イエスキリストを信じる信仰は聖霊による信仰であります。

第四、癒しの賜物であります。"癒す"という言葉と"恵み"という言葉の原語は全て複数名詞です。これは様々な種類の疾病全体が癒しの対象であるということを表しています。神癒のためにするお祈りは全聖徒の義務である特権であります。

第五、能力を行う恵みです。能力の行いが恵みとして表れる奇跡は神様がおられることとまた、神様が聖徒のために働かれておられるのを見せてくれる手段になります。

第六、予言する恵みです。新旧約聖書が完成された以降に聖霊の恵みとして与えられる予言は未来に対する先知的な予言より教会と信者達に徳を高め、勧めて慰める性格を持った予言だと話すことができます。未来に起きることについて話す場合もありますが、私達が注意すべきのことはこのような予言は聖書に記録された予言と同等と扱ってはならず、聖書に記録されたお言葉で分別して判断しなければなりません。

第七、霊を見分ける恵みです。神様の思いを否定する言葉はサタンの霊に接触されたり影響を受けたのです。聖書に記録されたお言葉を否定したり歪曲する言葉はその出処がサタンであります。

第八、種々の異言を語る恵みです。"異言を語る者は、人にむかって語るのではなく、神にむかって語るのである。それはだれにもわからない。彼はただ、霊によって奥義を語っているだけである。"と記録されています。皆さんは異言の恵みを受けて霊によって神様と秘密は話すお祈りをしてください。

第九、異言を解く恵みです。聖霊様が通訳する恵みをくださると異言を聞き取ることができる言葉で通訳することができます。聖書時代である今日には誰でも記録された神様のお言葉を読むことができ、そのお言葉を悟って伝える説教を聞くことができるので異言通訳の必要性が初代教会とは同じくないと言うことができます。

次に、ローマ人への手紙 12 章にある恵みを簡略に調べてみましょう。

"このように、わたしたちは与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っているので、もし、それが預言であれば、信仰の程度に応じて預言をし、奉仕であれば奉仕をし、また教える者であれば教え、勧めをする者であれば勧め、寄附する者は惜しみなく寄附し、指導する者は熱心に指導し、慈善をする者は快く慈善をすべきである。"としました。

コリントの信徒への手紙一 12 章の恵みと重なる予言の恵みを抜きにすると奉仕をする恵み、教える恵み、勧める恵み、寄附する恵み、指導する恵み、慈善をする恵みがあります。このような恵みは多少の差はあっても全ての聖徒に表れる恵みです。聖霊の恵みは神様の光栄を表して、福音を述べ伝え、教会の徳を高めるようにするために聖霊様が聖徒達に与えてくださいます。

聖霊の恵みと関連して"各自が御霊の現れを賜わっているのは、全体の益になるためである。"、"だが、あなたがたは、更に大いなる賜物を得ようと熱心に努めなさい。そこで、わたしは最もすぐれた道をあなたがたに示そう。"、"だから、あなたがたも、霊の賜物を熱心に求めている以上は、教会の徳を高めるために、それを豊かにいただくように励むがよい。"と記録されています。皆さんは聖霊の恵みに対する知識を持ちましたからこれを慕い求めて聖霊の恵みが豊かであるよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

過程と結末

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

信仰生活をしながら懐疑感や葛藤の生ずる場合があります。 この懐疑感や葛藤は概して自分が信じて期待したこととは違う状況に処するようになって戸惑うとか気落ちされる時に生ずるようになります。 信者が持つようになる懐疑感や葛藤はまるではしかを病むように誰も経験するようになるが信仰生活の年輪が加えながら徐々に減ります。 しかしその過程で信者はどんな理由で神様が私たちの信仰と祈祷と努力に相応する適切な回答をくださらないで願わない他の状況に至るようになさるかという質問をするようになります。
今日はこのような質問に対して聖書に出る傑出した三人の人の体験的事件を通じてよく見ます。

第一は、モセとイスラエル子孫が経験した事件を通じてよく見ます。

エジプトから解放されたイスラエル民はモセの導きの下で神様が彼らのご先祖に約束した乳と蜂蜜が流れるガナアン地を向けて出発しました。雲の柱と火の柱で導く神様の導きどおり行ってみたらイスラエル子孫の到達した所は紅海の前でした。 左右一方は岩だらけの丘で、残りの一方はエジプトの守備隊がある所でした。 モセは神様の指示どおりイスラエル子孫にとって海辺に陣を張らせました。 ところではイスラエル民を出たのを後悔するところにイスラエル民が道に迷って荒野に閉じこめられたところになったという報告をきくと屏居と馬兵と歩兵を導いて追撃しました。 イスラエル子孫はエジプトの軍隊が駆けて来ることを見て極甚な恐怖に捕らわれるようになりました。 痛しかゆしに処したと思った彼らはモセに向けて恨むものを言いました。 しかしモセは荒てないできっぱりと言いました。 “モーセは民に言った、「あなたがたは恐れてはならない。かたく立って、主がきょう、あなたがたのためになされる救を見なさい。きょう、あなたがたはエジプトびとを見るが、もはや永久に、二度と彼らを見ないであろう。 主があなたがたのために戦われるから、あなたがたは黙していなさい」。”(出エジプト記 14:13,14)
モセは神様の指示どおり杖を手に握ってその手を海に向けて突き出しました。 すると神様が大きい東風を送って海水を割れさせました。割れた水が左右に壁のように立っていたしその間でイスラエル子孫が渡りました。 彼らがほとんど渡った時エジプト軍隊が追い掛けて海の道に駆け付けました。 エジプト軍隊が海の中にいる時モセが神様の指示どおり手を海の上に突き出すと海が元々どおり回復しました。 エジプト軍隊があたふたと逃げたが結局滅絶されてしまいました。 モセは自分が計画して期待したこととは違う方向に雲の柱が導いて痛しかゆしに処するようになっても戸惑うとか気落ちしなかったです。 その理由はエジプト王がまっすぐに行ってイスラエル子孫を捕らえようと軍隊を導いて追撃するはずでそんなにすれば神様が権能を現わして光栄を得るようになると神様が予告したお話を気に掛けたからでした。

聖徒は難関に直面しても胆大に対処することができます。 神様を頼るからです。 神様が約束したお話によって神様を信じるからです。 彼が直面した難関を結末ではない過程で認識するからです。 聖書に記録されるのを “神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。” (ローマ人への手紙 8:28) としました。

二番目は、ヨセフが経験した事件を通じてよく見ます。

ヨセフはヤゴブの１２息子の中で十一番目の息子でヤゴブの寵愛を受けました。 ヨセフはあつい信仰を持ったし性分が善良で真実でした。ある日にはヨセフが奇妙な夢を見た話を兄さんたちにしました。 “わたしたちが畑の中で束を結わえていたとき、わたしの束が起きて立つと、あなたがたの束がまわりにきて、わたしの束を拝みました」。 すると兄弟たちは彼に向かって、「あなたはほんとうにわたしたちの王になるのか。あなたは実際わたしたちを治めるのか」と言って、彼の夢とその言葉のゆえにますます彼を憎んだ。 ヨセフがまた夢を見てお父さんと兄さんたちの前で夢話をしました。 “ヨセフはまた一つの夢を見て、それを兄弟たちに語って言った、「わたしはまた夢を見ました。日と月と十一の星とがわたしを拝みました」。” ヨセフは神様が夢を通じてくださったビジョンを心におさめました。 ところで現実は彼とは違う様相に進行されました。 ある日お父さんのおつかいでヨセフが遠い所で羊を飼う兄さんたちを訪ねました。 兄さんたちはヨセフをエジプトに下がる大商に奴隷に売りました。 ヨセフはエジプト王の侍衛長の家に売られました。 彼の当面した状況は神様が見せてくれた夢とはますますもっと遠くなりました。ヨセフは絶望するのを拒否して勇気を出して侍衛長の家でまじめに働いて侍衛長の信任を受けました。
ところでやや過ぎて侍衛長の妻から謀陥を受けて監禁所に閉じこめられるようになりました。王の給仕役の長と料理役の長がその所に投獄されました。 ある日はその二人が夢を見て心配するのにヨセフが彼らの夢を夢を判してくれました。 三日後にヨセフの夢合せどおりお酒引き受けた料理役の長は職務を回復したしパン焼く給仕役の長 処刑にあいました。 ヨセフはお酒引き受けた給仕役の長にエジプト王に自分の無罪を弁護してくれと言ってお願いしました。しかしどんな消息がなしに 2 年の歳月が経ちました。
ある日エジプト王が奇妙な夢を見たがエジプトにある魔術師と知恵者をすべて呼んだが夢を解釈する者がいなかったです。 やっとお酒引き受けた給仕役の長がヨセフを憶え出して王にすすめました。 ヨセフは王の夢がこれから 7 年大豊年が近付いた後引き継いで 7 年大凶年が近づくことを知らせてくれることであると夢を判しました。 王はヨセフを総理席に座らしました。 ヨセフは 7 年豊年の間に倉庫をたくさん作って食糧を保存して 7 年凶年の間に民が難しさなしに過ごすことができさせました。隣り国民が食糧を買いにエジプトで集まって来るのでエジプトは富強するようになりました。ヨセフはお父さんと兄弟の家族を皆エジプトで呼び入れて王が下さった油っこい地ゴセンに住むように措置しました。 歳月が経ってヤゴブが世を去ると兄たちはヨセフが仕返しするかも知れないという考えをしてヨセフにひいては慈悲を求めました。

この時ヨセフが彼らに言うのを “ヨセフは彼らに言った、「恐れることはいりません。わたしが神に代ることができましょうか。 あなたがたはわたしに対して悪をたくらんだが、神はそれを良きに変らせて、今日のように多くの民の命を救おうと計らわれました。それゆえ恐れることはいりません。わたしはあなたがたとあなたがたの子供たちを養いましょう」。彼は彼らを慰めて、親切に語った。”(創世記 50:19～21) としました。 ヨセフは自分が信じて期待したこととは違う状況に処するようになっても戸惑うとか気落ちしなかったです。 その理由はヨセフは自分の当面した困境が結末ではなくて神様が善を成す過程だと認識したからです。

三番目は、使徒パウロが宣教活動で体験した事件を通じてよく見ます。

使徒パウロは第 2 次伝道旅行をする時にアンデーオック教会で出発してスリアのアンデーオックを経て陸路に沿って西の方に進行して小アジア城邑を訪問しました。パウロはルスドラでデーモデを同役者で同行したし続いて小アジア地域を中心に福音を伝えようと決心しました。ところで聖霊がパウロに小アジア地域に行くことができないようにはばみました。 聖霊が小アジア地域に行くことができないようにするのでパウロはムシアに行ったしそこでムシアの東の方に位置したビドニアに行こうと試みました。今度にもキリストの本当にすぐ聖霊がこれを承諾しなかったです。そしてムシアの西の方にあるドロアに下がりました。 パウロがドロアに下がってとどまる時マケドニア人の一人が立って助け要請することを幻想で見ました。 マケドニアはギリシアの上側にあるバルカン半島地域です。 パウロ使徒の仲間はマケドニアでいく船に乗って出発したしビルリボに行きました。そしてパウロがヨーロッパ宣教に初足を踏みました。
パウロ使徒はアジアに行って福音を伝えようと計画して推進したが神様の計画はヨーロッパに行かせるのでした。 私たちは自分が願うそのままにならなければならないという考えを捨てなければなりません。 神様は私たちがどんな仕事を自ら決めて行うことをそのまま置く場合もあるがそうではない場合もあります。 事毎に最善をつくして祈りながら努力して一方では神様の引導を求めて神様の決定に従わなければなりません。

自分が信じて期待して祈りながら努力したのが無駄になってむしろ願わない状況に進行される時に聖徒の皆さんは次の三種類を肝に銘じてそこに適当に生きて行ってください。 第一、神様は善良で義のあって真実です。 神様のこのような品性に適当に行う人が経験するようになる困難は 結末ではなくて神様の摂理で善を成す過程に過ぎないです。 第二、神様私が何をしなければなりませんか? と尋ねて神様の引導と御旨を従って行う人の当面する困境は結末ではなくて神様の摂理で善を成す過程に過ぎないです。 第三、神様のお言葉に根拠した信仰を持って期待して祈りながら行動する人は期待に行き違う状況に処しても気落ちする理由がないです。 それは結末ではなくて神様の摂理で善を成す過程に過ぎないです。 聖徒の皆さんはこの三種類を肝に銘じてそこに適当に生きて行くので懐疑感と葛藤がない成熟した信仰生活をなさるように願いします。